

氏名	川原 洋
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	甲第637号
学位授与年月日	令和6年2月7日
審査委員	主査 教授 林 健太郎 副査 教授 山崎 和裕 副査 准教授 岡本 貴行

論文審査の結果の要旨

虚血性心疾患の二次予防としてスタチンで低比重リポ蛋白コレステロール (LDL-C) 値を低下させるが、経皮的冠動脈形成術 (PCI) 後の心血管イベントを完全に予防することはできない。アポリポ蛋白 (Apo) が残余リスク評価として期待されているが、PCI後についてはほとんど報告されていない。申請者は今回PCIを受けた患者について長期的な主要心血管イベント (MACE) とApoの関係について調査した。主要評価項目はMACE (心血管死、急性冠症候群、新規病変に対する冠動脈血行再建術)、副次評価項目は心血管死と急性冠症候群とした。PCIを受けた241人について平均2079日追跡し、MACEは78例発症した。多変量のCox比例ハザード解析でApo BがMACEの独立した予後予測因子であった。Apo B、Apo B/apo A1、LDL-C、LDL-C/高比重リポ蛋白コレステロール (HDL-C) を中央値で2群に分けて Kaplan-Meier 推定法を行い、主要評価項目ではApo B、Apo B/apo A1、副次評価項目ではApo B/apo A1のみ有意であり、LDL-C、LDL-C/HDL-Cでは統計学的差はなかった。この結果から、申請者は、PCIを受けた患者では、Apo BおよびApo B/apo A1はLDL-CおよびLDL-C/HDL-Cよりも長期的なMACEの予後予測因子として優れていると結論付けた。本研究はPCI後の残余リスク評価としてアポリポ蛋白の有用性を報告することに成功した。